



東日本大震災から15年

東日本大震災を振り返って

2011年3月11日金曜日午後2時46分、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生しました。群馬県内でも震度6弱以上を観測し、被害にあわれた方がいらつしやいました。震災直後の避難者は約47万人、仮設住宅などの入居は最大で約十二万四千戸に及びました。

震災後、私たちあおば薬局・コアラ薬局の職員も宮城県の調剤薬局などで支援活動をしました。地震発生から一か月を経過しても余震は続き、松島市の海岸近くの診療所での支援では、一番重要なこととして、津波警報出た時の避難場所を伝えられました。とにかく高いところへ逃げるようにと教えてもらったことが、今でも記憶に残っています。

また、県内でも計画停電が実施され、生活に影響が出ました。計画停電の時間に合わせて、仕事や家事の時間を調整したのではないのでしょうか。県内各地にあるあおば薬局も、職員が持ち寄ったランブや懐中電灯など、限られた明るさの中、普段であれば機械がしてくる作業を手作業で行い、患者様にご迷惑が掛からないように業務を行いました。

この計画停電の経験から電気的重要性を感じた方は多かったと思います。ただ、福島原子力発電所の事故により、原子力発電の安全神話を崩れました。この事故により日本の原子力発電所の基準見直しに繋がりました。基準が見直されたからと言って、本当に安心できるのでしょうか。

あれから、15年が経ちましたが、未だ復興の途中で、生活に影響が残っています。放射性物質を含む海洋放出による風評被害であったり、事故に伴う放射性物質の影響により県内でも出荷制限・出荷自粛となっている農水産物が今もあります。脱炭素社会を目指す、日本のエネルギー政策を注視していきましょう。

東日本大震災後も各地で多くの災害にみまわれています。時間の経過とともに復興は少しずつ進んでいるかもしれませんが、被災地の情報は少なくなっています。災害を風化させないためにも、関心をもち続けていきたいです。

(関口)

東日本大震災年表



- 3月11日 14:46 三陸沖でマグニチュード9.0の地震発生
- 14:46 福島第一原子力発電所の1~3号機が地震により自動停止
- 14:49 気象庁が太平洋沿岸に大津波警報を発令
- 15:51 福島相馬検潮所で最大波9.3m以上の津波を観測
- 19:03 福島第一原子力発電所について原子力緊急事態宣言を発令
- 21:23 福島第一原子力発電所の半径3km圏内の住民に避難指示
- 3月12日 15:36 福島第一原子力発電所1号機で水素爆発発生
- 3月13日 17:58 津波注意報解除
- 3月14日 11:01 福島第一原子力発電所3号機の原子炉建屋付近で水素爆発発生
- 17時過ぎ 東京電力が初の計画停電を実施
- 3月15日 福島第一原子力発電所4号機で火災発生
- 3月17日 自衛隊が福島第一原子力発電所3号機に散水開始
- 3月20日 福島県飯館村の水道水から放射性物質を検出
- 3月24日 東京電力関係者3名の被ばくを確認
- 3月28日 福島第一原子力発電所の敷地内からプルトニウムを検出
- 4月 8日 東京電力、東北電力管内で計画停電の原則終了を宣言

- 東日本大震災後、日本で稼働していた多くの原子力発電所が運転を停止
- 2012年
 - 5月 泊原子力発電所3号機が運転停止、国内の原発稼働がゼロへ
 - 2013年
 - 7月 自然災害やテロ攻撃に備える原子力発電所の新規制基準施行
 - 2015年
 - 8月 新基準施行後、西日本にある原子力発電所が順次再稼働
 - 2023年
 - 8月24日 福島第一原子力発電所の敷地内にたまる放射性物質トリチウムを含む処理水 (ALPS 処理水) の海洋放出が開始
 - 2024年
 - 10月 震災後、東日本ではじめて女川原子力発電所が原子炉を起動
 - 2025年
 - 3月時点 原発周辺の7市町村の一部が現在も避難指示区域 (帰還困難地域) に指定されている。
 - 2026年
 - 1月 東京電力が柏崎刈羽原子力発電所6号機を再稼働

